

資料編 5. アンケート結果サンプル 1

動物園・水族館で実施された実例プログラム集			
プログラム名	骨格標本を用いたレクチャー「ライオン・シマウマ・オオサンショウウオ脊椎動物みな仲間」		
実施園館	広島市安佐動物公園	プログラムNo.	Z783
共催など		実施日	2000/10/28
概要・実施方法			
概要			
主に骨格標本を使用して、そこから知ることのできる脊椎動物達の体のしくみや進化を紹介。			
ねらい			
●理科 理科以外の 学校教育	●自然・環境 ●野生生物 動物愛護	●動物園・水族 館 情操	アート 文学 その他
実施場所			
施設内	動物科学館2Fホール		
施設外			
準備物			
動物の骨格標本、頭骨レプリカ(人間、アウスロロピテクス他)、サカナのパネル、ナメクジウオ標本、天秤ばかり			
実施しやすい 参加者数	理由		
20人	⇒ 標本を近くで見たり、手にとって見ていただきながら進めると、より効果的であり、行い易い。		
所要時間		実施者	
1日目	?時間	飼育係・獣医師	
2日目		教育担当係員	1人
3日目		ボランティア	
その他		イベント業者	
		その他	
周知方法		受付方法	
報道各社	友の会	● 事前	
●自園館広報誌	放送・掲示	当日	
母体広報誌	外掲示	実施回数	
その他		定期(年間回数)	
		● 非定期	
参加者年齢			
幼保(年少)			
幼保(年長)			
小学(低学)			
小学(高学)			
中学			
高校			
● 大学			
社会人			
高齢者			
年齢制限な			
参加者数			
⇒ 12人			
当日入園者数			
1039人			
参加者区分			
個人単位			
家族単位			
● 団体学校			
団体一般			
取材			
● なし			
テレビ			
ラジオ			
新聞			
その他			
参加者アンケート			
● 無し			
同封			
未同封			
企画・計画書			
無し			
今後の展望など			
もっと充実させるために			
実施者数			
予算			
知恵・人材			

● その他 小型草食哺乳類や大型馬類など、レクチャーに使用する標本のさらなる充実が望まれる。

備考

⇒ヒアリング結果を参照する

● 同封

未同封

※企画・計画書の入手は各園館にお尋ねください。

進行表

時刻	場面	所要時間 (分)	詳細

資料編 5. アンケート結果サンプル 2

動物園・水族館で実施された実例プログラム集																					
プログラム名	動物解説(リレーガイド)																				
実施園館	川崎市夢見ヶ崎動物公園	プログラムNo.	Z303																		
共催など		実施日																			
概要・実施方法																					
<p style="text-align: center;">概要</p> <p>総合的な学習及び生活科の時間に学年単位で実施。飼育動物の諸々の解説を担当者が行なう。(1学年の生徒数を引きつれてのガイドツアーは、解説の行き届きに無理が生じるため、見学コースを6つに分けて、それぞれに職員がついて、6回の解説を行ない、同時進行する)</p>																					
<p style="text-align: center;">ねらい</p> <table border="1"> <tr> <td>理科</td> <td>自然・環境</td> <td>●動物園・水族館</td> <td>アート</td> </tr> <tr> <td>理科以外の学校教育</td> <td>●野生生物</td> <td>●動物愛護</td> <td>文学</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>情操</td> <td>その他</td> </tr> </table>				理科	自然・環境	●動物園・水族館	アート	理科以外の学校教育	●野生生物	●動物愛護	文学			情操	その他						
理科	自然・環境	●動物園・水族館	アート																		
理科以外の学校教育	●野生生物	●動物愛護	文学																		
		情操	その他																		
<p style="text-align: center;">実施場所</p> <table border="1"> <tr> <td>施設内</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>施設外</td> <td></td> </tr> </table>				施設内	●	施設外															
施設内	●																				
施設外																					
<p style="text-align: center;">準備物</p> <table border="1"> <tr> <td>飼育展示動物</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実施しやすい参加者数</td> <td>理由</td> </tr> <tr> <td>90人</td> <td>解説を聞きやすくするため15人ずつ6グループに分けている</td> </tr> </table>				飼育展示動物		実施しやすい参加者数	理由	90人	解説を聞きやすくするため15人ずつ6グループに分けている												
飼育展示動物																					
実施しやすい参加者数	理由																				
90人	解説を聞きやすくするため15人ずつ6グループに分けている																				
<p style="text-align: center;">所要時間</p> <table border="1"> <tr> <td>1日目</td> <td>1.5時間</td> </tr> <tr> <td>2日目</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3日目</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> </table>		1日目	1.5時間	2日目		3日目		その他		<p style="text-align: center;">実施者</p> <table border="1"> <tr> <td>飼育係・獣医師</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>教育担当係員</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ボランティア</td> <td></td> </tr> <tr> <td>イベント業者</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> </table>		飼育係・獣医師	7人	教育担当係員		ボランティア		イベント業者		その他	
1日目	1.5時間																				
2日目																					
3日目																					
その他																					
飼育係・獣医師	7人																				
教育担当係員																					
ボランティア																					
イベント業者																					
その他																					
<p style="text-align: center;">周知方法</p> <table border="1"> <tr> <td>報道各社</td> <td>友の会</td> </tr> <tr> <td>自園館広報誌</td> <td>放送・掲示</td> </tr> <tr> <td>母体広報誌</td> <td>外掲示</td> </tr> <tr> <td>●その他</td> <td></td> </tr> </table>		報道各社	友の会	自園館広報誌	放送・掲示	母体広報誌	外掲示	●その他		<p style="text-align: center;">受付方法</p> <table border="1"> <tr> <td>●事前</td> <td></td> </tr> <tr> <td>●当日</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">実施回数</td> </tr> <tr> <td>●定期(年間回数)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>●非定期</td> <td></td> </tr> </table>		●事前		●当日		実施回数		●定期(年間回数)		●非定期	
報道各社	友の会																				
自園館広報誌	放送・掲示																				
母体広報誌	外掲示																				
●その他																					
●事前																					
●当日																					
実施回数																					
●定期(年間回数)																					
●非定期																					
<p style="text-align: center;">参加者年齢</p> <table border="1"> <tr> <td>● 幼保(年少)</td> </tr> <tr> <td>● 幼保(年長)</td> </tr> <tr> <td>● 小学(低学)</td> </tr> <tr> <td>● 小学(高学)</td> </tr> <tr> <td>● 中学</td> </tr> <tr> <td>● 高校</td> </tr> <tr> <td>● 大学</td> </tr> <tr> <td>● 社会人</td> </tr> <tr> <td>● 高齢者</td> </tr> <tr> <td>● 年齢制限なし</td> </tr> </table>				● 幼保(年少)	● 幼保(年長)	● 小学(低学)	● 小学(高学)	● 中学	● 高校	● 大学	● 社会人	● 高齢者	● 年齢制限なし								
● 幼保(年少)																					
● 幼保(年長)																					
● 小学(低学)																					
● 小学(高学)																					
● 中学																					
● 高校																					
● 大学																					
● 社会人																					
● 高齢者																					
● 年齢制限なし																					
<p style="text-align: center;">参加者数</p> <table border="1"> <tr> <td>⇒ 90人</td> </tr> <tr> <td>当日入園者数</td> </tr> </table>		⇒ 90人	当日入園者数																		
⇒ 90人																					
当日入園者数																					
<p style="text-align: center;">参加者区分</p> <table border="1"> <tr> <td>● 個人単位</td> </tr> <tr> <td>● 家族単位</td> </tr> <tr> <td>● 団体学校</td> </tr> <tr> <td>● 団体一般</td> </tr> </table>				● 個人単位	● 家族単位	● 団体学校	● 団体一般														
● 個人単位																					
● 家族単位																					
● 団体学校																					
● 団体一般																					
<p style="text-align: center;">取材</p> <table border="1"> <tr> <td>● なし</td> </tr> <tr> <td>● テレビ</td> </tr> <tr> <td>● ラジオ</td> </tr> <tr> <td>● 新聞</td> </tr> <tr> <td>● その他</td> </tr> </table>				● なし	● テレビ	● ラジオ	● 新聞	● その他													
● なし																					
● テレビ																					
● ラジオ																					
● 新聞																					
● その他																					
<p style="text-align: center;">参加者アンケート</p> <table border="1"> <tr> <td>● 無し</td> </tr> <tr> <td>● 同封</td> </tr> <tr> <td>● 未同封</td> </tr> <tr> <td>企画・計画書</td> </tr> </table>				● 無し	● 同封	● 未同封	企画・計画書														
● 無し																					
● 同封																					
● 未同封																					
企画・計画書																					
<p style="text-align: center;">今後の展望など</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">もっと充実させるために</td> </tr> <tr> <td>実施者数</td> <td></td> <td>予算</td> <td></td> </tr> </table>				もっと充実させるために				実施者数		予算											
もっと充実させるために																					
実施者数		予算																			

知恵・人材
その他

備考

⇒ヒアリング結果を参照する

無し
● 同封

未同封

※企画・計画書の入手は各園館にお尋ねください。

進行表

時刻	場面	所要時間 (分)	詳細
10:30	集合、オリエンテーション		
10:40	ガイド開始		各スポット7～8分のガイドスポット
11:40	ガイド終了、質疑応答、まとめ		
12:00	終了		

資料編 5. アンケート結果サンプル 3

動物園・水族館で実施された実例プログラム集			
プログラム名	水族館を知ろう		
実施園館	千歳サケのふるさと館	プログラムNo.	A082
共催など		実施日	2000/1/7
概要・実施方法			
概要 水族館の裏側を見学し、オープン準備、餌やりなどを体験する(実施日は休館中)			
ねらい			
理科	自然・環境	●動物園・水族館	アート
理科以外の学校教育	野生生物 動物愛護	館 情操	文学 その他
実施場所			
施設内	全体		
施設外			
準備物			
軍手、掃除用道具、バケツ、カップ、テキスト			
実施しやすい参加者数		理由	
20人	作業の出来る範囲		
所要時間		実施者	
1日目	2.5時間	飼育係・獣医師 3人	
2日目		教育担当係員	
3日目		ボランティア	
その他		イベント業者 その他	
周知方法		受付方法	
●報道各社 友の会 ●自園館広報誌 ●放送・掲示 ●母体広報誌 ●外掲示 その他		●事前 ●当日	
		実施回数	
		1回 定期(年間回数) 非定期	
参加者年齢			
幼保(年少) 幼保(年長)			
●小学(低学) 小学(高学) 中学 高校 大学 社会人 高齢者 年齢制限なし			
参加者数			
⇒ 24人			
当日入園者数			
0人			
参加者区分			
●個人単位 家族単位 団体学校 団体一般			
取材			
なし テレビ ラジオ ●新聞 その他			
参加者アンケート			
●無し 同封 未同封			
企画・計画書			
今後の展望など			
もっと充実させるために			
実施者数			
予算			

知恵・人材
その他

備考

⇒ヒアリング結果を参照する ⇒写真を見る

無し
● 同封
未同封

※企画・計画書の入手は各園館にお尋ねください。

進行表

時刻	場面	所要時間(分)	詳細
	講義	30	水族館の仕事やろ過の仕組みについて説明
	館内の見学	30	事務所から入り、濾過槽、機械室、2Fバックヤードなど、館の裏側を見学
	休憩	10	
	体験	50	参加者を3グループに分け、仕事を体験する。①渓流水槽掃除②ミニ水槽掃除③ろ過逆洗
	餌やり体験	30	大水槽の餌やりを体験
	終了		

資料編 5. アンケート結果サンプル 4

プログラム名	イレブンオリエンテーリング	
実施園館	東京都葛西臨海水族園	プログラムNo. A232
共催など		実施日 2000/10/8

概要・実施方法

概要	
園内をまわりながら、11ヶ所のチェックポイントでクイズに回答してもらう。クイズは主に水槽の生物の観察をすれば判るもので、全問回答した人に点数に関係無く絵はがきを授与する。	
ねらい	
理科	自然・環境 ●動物園・水族館 理科以外の ●野生生物 館 学校教育 動物愛護 情操 その他
アート	文学
実施場所	
施設内	ガラスドーム(出入口付近)
施設外	
準備物	
問題はシールに印刷し、水槽等にはり出す。絵はがき(オリジナル)	
実施しやすい参加者数	理由
無制限人	
所要時間	実施者
1日目 7.5時間	飼育係・獣医師
2日目	教育担当係員 1人
3日目	ボランティア
その他	イベント業者 その他 7~8
周知方法	受付方法
報道各社 友の会 自園館広報誌 放送・掲示 母体広報誌 外掲示 その他	事前 ● 当日 実施回数 4回 定期(年間回数) 非定期



参加者年齢	
	幼保(年少) 幼保(年長)
	小学(低学) 小学(高学) 中学 高校 大学 社会人 高齢者 ● 年齢制限なし
参加者数	1608人
当日入園者数	11342人

参加者区分	
	● 個人単位 ● 家族単位 団体学校 団体一般
取材	
	● なし テレビ ラジオ 新聞 その他

今後の展望など

もっと充実させるために	
実施者数	
予算	

参加者アンケート	
	● 無し 同封 未同封
	企画・計画書

知恵・人材
その他

備考

⇒ヒアリング結果を参照する

● 無し
同封
未同封

※企画・計画書の入
手は各園館にお尋
ねください。

進行表

時刻	場面	所要 時間 (分)	詳細
	事前準備		問題の検討、問題用紙(チェックポイント)を園内に掲 示、解答用紙、鉛筆等準備
	会場設営 本番	30 450	採点机、ポスター掲示など 開園中終日開催。主に採点、問題解説、絵はがき授与 を1～2名で行う
	片付け		

資料編 6. 調査研究委員会議事録

第 1 回 調査研究委員会議事録

日時: 12 月 1 日(金) 午後 1 時 30 分～5 時

場所: 上野動物園会議室

議事

はじめ 会長挨拶

自己紹介 参加者 外部委員 正田陽一、水野憲一、鳩貝太郎、染川香澄、小林毅

日動水 池田会長、堀総務担当理事、高松総務部長

推進委員 石田、山本、市川、大丸、白井、松田

1. 経過の概要説明

文部省の「生涯学習活動の促進に関する研究開発」事業の一環として、研究開発費の申請を受理された。

日動水は「教育活動推進委員会」を組織して、この研究開発の受け皿とするとともに将来の教育普及部の基礎とする。

「本研究開発」活動を通じて実施すること。

- 1) 各園館の実施している教育事業の実態を把握し、評価し、他の園館が使用できるようにする。
- 2) そのうち 13 - 14 園館を選び、詳細なヒアリングを通じて、教育活動の内容把握と技術移転に役立てる。
- 3) 動物園、水族館の教育事業のあり方を検討し、各園館の方針づくりに役立てる。

推進委員会の今後の活動

2. 全国アンケートの実施

石田 今年度については、時間的な制約もあり、各園館がもっている教育プログラムを掘り起こして、全園館がプログラムを共有できるようにしたい。

今回のアンケートには、二つのねらいがあります。一つは、教育プログラムの実態をつかむこと。もう一つは、各園館が実施しているプログラムを自己評価する意識を持ってもらうこと。教育にしる、行事にしる、キチンと評価することはあまり行われていなかった。

山本 アンケートでプログラムを拾い上げることを追求するが、中にはプログラムとして未熟なものもあるだろう。それはそれで、従来、動物園や水族館が教育といていたことの実態があきらかになる。それを、委員の皆さんに提示し、それぞれの専門の立場からご批判いただき、われわれの教育プログラムの質を高めることもしていきたい。

○アンケートの実施について

染川 ヒアリングの注記が主観的に思われる。引率の教師、利用者、園館の3者の意見を集約する形にならないか。

小林 狙いや達成目標を明確にしておけば、実施者に対して批判的なことばかりでなく、良いところをのばすような指摘もできる。

染川 評価の数値化はだれの意見が反映されているのか。

石田 今回の調査では、ヒアリングの注記を利用者側（教員、親、子ども）から聞くことは物理的に不可能であった。また、評価の数値化は、参加した調査員が全員で討論して行った。

3. 教育プログラムについての意見

○教育プログラムに狙いをもたせる

小林 利用者が、どのような形で訪れるにしても、何を教えるか、誰がどう教えるか、を明確にしておくことが、大切。狙いが曖昧では効果も現れにくい。私は、自然観察や自然体験をやっているが、学校からは1時間で何かやって欲しい、という要望が多い。非常に短い設定時間の中では、次の機会には、半日・一日のプログラムを体験してもらおうという期待を込めてやっている。

自然観察はいわば行為にすぎないのであって、観察を通じて何を教えるのかによって、プログラムは異なってくる。

水野 小林さんの言うように何を教えるのかなど、狙いを持つことが重要。

染川 よく言われるのに、「思いでづくり」というのがあるが、これは発想が逆で、思いでのために体験するのではなく、ちゃんとした経験が思い出になっていくのだ。今、しきりに言われる体験教育も、ただ体験すればよいのではなく、個人個人の体験が経験として身に付くように体験の質を向上させることが、必要である。

アンケートでは、プログラムの狙いを類型化しているが、文章として記述することも重要。

ヨーロッパの博物館では、体験教育や解説をする際に、博物館が研究活動をしていることをなんども繰り返して説明している。動物園や水族館の姿勢をきちんと伝えることも重要です。

会長 教育プログラムが終わったときに楽しかったという印象を持たせる工夫も必要。

鳩貝 興味が深まって、知的レベルがどんどん上がる仕掛けが必要で、教師も動物園・水族館を学びの場として意識する試みをする。

小林 学校へ出かけて行って、教師対象の研修を実施する方法もある。またハンズオンといわれるが、マインズオン、つまり心が動いて行く、手先だけではないプログラムが求められる。プロジェクトワイルドなども使い方によっては、知識教育にしかない。

○プログラムにおける教師の役割

- 会長 教師が、遠足の下見に来るが、先生だけで回っている。
- 石田 葛西では下見ガイドというのをやった。特異的に下見の多い9月1日に 校が来園して 校の先生が、解説員のガイドを受けた。
動物園や水族館を教育的に利用するきっかけになると思う。
- 白井 下見では、動物のふれあいができる場所、産卵がみられる水槽、イルカのショーの時間など具体的にコースを説明する。リピーター誘致として成功している。そのほかにも館側からメニューを提供している。民間と公共では学校誘致に温度差があるのでは。
- 松田 教師の方が、飼育係より話術はうまいと思う。しかし水族などの専門知識は少ないので、飼育との役割分担が必要だと思う。
- 白井 子供達の疑問に答えるためには専門知識は必要で、飼育係に任せた方がいい。
- 高松 上野では、ヘビのタッチを実施しているが、これをした上で、は虫類の展示を見ると、目が輝いている。タッチなどの時には、先生はまとめ役として重要だ。
- 堀 こどもは先生がいない時の方が、良い意味での解放感があり、積極的に質問が飛び出す。
- 石田 親子子供も全て巻き込んでやっているが、特に支障があるとは思えないが。
- 染川 プログラム次第であるが、学校の中での生徒同士や教師との人間関係を、一度バラバラにした方が良い場合もある。
- 山本 富山では、こどもだけにすることも、先生が付き添う場合もある。ヘビの嫌いな先生が触れるようになる過程を見て、子供達もヘビに触ってみるといふ事例もある。
- 小林 ラベルや解説板など、ノンパーソナルな媒体で、多くの人に情報を提供するには優れている。実施者がいる対人的な解説では、インタープリテーションの能力が求められる。

○動物園・水族館での生命教育

- 染川 動物園・水族館では、マーケットリサーチがされていないのではないかと。
- 山本 今までは、行われていない。動物園や水族館は従来から安定した人気施設であり、マーケットリサーチの必要を感じてこなかったのだろう。
- 水野 飼育係が教育活動をやると聞いてびっくりした。動物園や水族館では、動物の存在だけで、情操の教育ができているようにも感じられる。野生動物への正しい態度を教えることが大切だと思う。動物への食事なども見られるようにしたらどうだろう。
- 石田 日本の動物園で餌の時間を公開しているところは少ない。
- 会長 外国では、生き餌を食べるところを見せている例もある。
- 大丸 学校飼育動物も、愛玩動物だけを対象にするのではなく、食べる動物、家畜などを飼育するとよい。
- 鳩貝 そう考えるが、現在では反発が大きい。
- 山本 動物の生死の問題も、動物園が伝えるべき大きな課題である。

堀 飼育係に、教育的役割を担わせようとする、反発がある場合がある。
石田 教育プログラムを収集したり、開発していくのだが、その際に、一人でもできるプログラムを提供してみたい。例えば、一人の職員が、あるいは園長が、発案すればそれでやれる状況をつくり、その中でまわりの人の意識も変わるかも知れない。

○出前授業

水野 学校対象のプログラムを色々と考えているだろうが、学校へ出かけていくのではないのか。最近、ゲストティーチャーの重要性が言われている。

石田 既に、実施しているところも多い。多摩動物公園では、年間40回になると聞いている。現在の組織では限界に達しているようだ。葛西でも10回くらいはある。ただ、プログラムなどを決めて誘致しているところは少ないだろう。

堀 インターネットなども活用して、アウトティーチや出前授業など連携させて、多様なプログラムを作って欲しい。

4. その他の問題

○学校飼育動物問題と動物園

会長 学校での飼育動物を、夏休み期間動物園で預かってもらいたいとの意見が、教員からきているが、生き物に対する感覚がずれているように感じられる。生き物に対する正しい感じ方を育成していくのも、動物園教育のひとつであろう。

鳩貝 小学校1,2年では、社会科と理科を合わせた形で生活科がはじまっており、当初は、各学校で工夫して、授業を行うようになっていた。ところが具体的な指針が欲しいという要望がでて、教科書を作成した。その中にウサギの飼育を勧める内容のものがあ、多くの小学校でウサギを飼育する結果となった。だが、教師自身がウサギのことを知らないのに、虐待に近いような飼育をするケースが多くなっている。群馬県のように、獣医師会が、学校獣医制度を設けて、県をあげて対応している。また大阪のように、学校飼育動物をレンタルする会社が現れるなど、動物飼育の意味が失われるようなケースも出てきている。

堀 動物園教育は、生涯教育の一つとして、全世代を対象とできるが、当面学校を対象をしぼることも考えられる。

○職場体験

鳩貝 最近の教育現場では、体験が非常に重視されるようになってきている。しかし、家庭で失われた体験の場を、学校教育の中させればよい、とするように思える。本質的に家で解決しなければならないこともあるように思う。中学校では、1週間、通常の授業をしないで、職場体験させる事例もある。

カリキュラムとしては職業調べがあり、それは多くの学校が採用している。

大丸 確かに、職場体験の申し込みは多く、対応に苦慮している。本来の動物園教育とは異なるものである。中には、単に他の子についてくるだけの生徒もいる。

山本 富山では、動物園側で積極的に学校を受け入れており、その結果、比較的熱心な子供たちが参加している。職場体験のようなものもあるが、いわゆる動物学が自然観察をテーマにしている。

白井 飼育体験については、学校の希望に関わらず、早朝から飼育の仕事に合わせておこなうのを条件にしているが、年間6件ほどある。

鳩貝 教員のなかには、預ければよいと考えている教師もいる。

○日動水としての取り扱い

堀 日動水の中で、教育に関する検討を、どこの部門で実施するか考えなければならぬ。各技術研究会で、教育の話題を2つでも3つでもとりあげて行くようにしたらどうか。

会長 教育の重要性については、各園館でトップの意識に差があり、全体として積極的な方向が生まれていない。

第2回 調査研究委員会議事録

平成13年3月13日(火)14時～17時

場所:上野動物園会議室

出席者	正田陽一	(財団法人東京動物園協会副会長)
	鳩貝太郎	(国立教育政策研究所教育課程研究センター)
	水野憲一	(NHK エンタープライズ 21)
	染川香澄	(Hands On Planning)
	小林 毅	(自然教育センター)
	石田おさむ	(葛西水族園園長)議事進行
	山本茂行	(富山ファミリーパーク公社飼育課長)
	高松 巖	(上野動物園副園長)
	市川典良	(よこはま動物園飼育係長)書記

高松 挨拶・本日はお忙しいなかご出席いただきありがとうございます。上野動物園では平成14年度より総合的学習対応をスタートする予定をしています。本日は宜しく願いいたします。

石田 資料説明

《アンケート用紙について》

動物園・水族館教育プログラム共有化に関するアンケート(例:マグロの解剖と解説)用紙はプログラム名・実施日・概要等を項目ごとに記入してもらうようにしました。

《アンケート回収状況について》

同アンケート回収率は73%で非常に高い率で、動物園と水族館を比べてもほぼ同程度です。

非解答園館からの意見としては教育プログラムを標準化することに疑問視する意見などもありました。

《カテゴリー別サーチについて》

カテゴリー別サーチについては(資料を参照)飼育体験・ガイド等9種に分類しました。

《プログラムの傾向について》

プログラムの傾向としては事前申込型が2/3程度でした。

《参加区分について》

参加者区分は個人単位・団体学校の順です。

《所要時間分布について》

所要時間は1時間未満が多く、20時間以上のプログラムもあり2~3日間で宿泊して行うものもありました。

鳩貝 所要時間の計り方もいろいろですか？

石田 そのとおりで、各園によって多少のばらつきがあるようです。

《実施者合計分布について》

実施者合計分布については、カウント方法は各園で異なるのではないのでしょうか。

《参加者数分布について》

参加者数分布は10人～500人まであり、50人未満が一番多く500人を越えるプログラムはほとんどがオリエンテーリングやクイズ形式のものです。

《理想最多参加者数について》

理想最多参加者数50人ぐらいにピークがあり次に20人程度となっています。

《参加者年齢区分について》

参加者年齢区分は小学生高学年がもっとも多く、幼保が意外に少なく、上野動物園の入園者は3歳児が最多です。

鳩貝 幼児教育は非常に大切なことなので、各園館の更なる努力が必要ですね。

石田 そのとおりだと思います。

《プログラムの目的と現状について》

石田 ねらいは動物園・水族館の理解、自然環境が多く、最近は野生生物に関するものが増加しているようです。

高松 理科、学校教育が少ないのは、各園で提供できる材料が少ないということで、更に勉強が必要ではないのでしょうか。

水野 各カテゴリーの正確な理解も非常に難しく、マグロは水産庁に言わせると野生生物ではなく資源という取扱いなんですよ？

《期待できる効果について》

石田 期待できる効果については、例えば集客効果でみるとは事前申込形式が多いことがわかります。また、経費効果でみるとグラフの5の範囲が安いということになります。

《実施者について》

実施者については、専任の教育担当者がいるのは30園館ぐらいで、ほとんどは飼育係・獣医が行っているという結果がでました。

小林 普及担当者の育成・ボランティアの育成教育が必要ですね。

石田 そのとおりです。このプロジェクトの将来的な役割なるのではないのでしょうか。東京ズーボランティアズは4時間/日・20日間(8割出席条件)研修を行っていて、非常に厳しい条件です。

小林 研修者は若年層は将来プロになる比率が高くて、高齢者は楽しみが目的の方が多いようですね。

正田 阪神大震災以降ボランティアも変化しました。

高松 ボランティアを介しての入園者(リピーター)の獲得も大切なことだと思います。

石田 モントレー方式のようにボランティアのランク付けなども考えても良いのではないですか。

水野 動物園・水族館の存在自体が教育であって、セルフガイドも大切になってきますよね。

石田 水族館は可能だと思いますが、動物園は難しい面がありますね。

高松 動物園のサインで「今…を見てほしい」式解説の工夫がほしいですね。

- 染川 サインの内容で単に知識だけでなく、考え方を揺さぶられるような工夫もがほしいと思います。
- 正田 上野動物園のラマ・バク・カピバラの展示場のサインは工夫が必要だと思います。
- 水野 スポットインタープリテーションとって、実物と映像で、イギリスのプリストルにエレクトロニクス・バーチャル ZOO がオープンして、今後は、日本の園館でも展開していったらどうでしょうか。
- 高松 上野動物園でもズー・サイエンスホール建設を予定しています。
- 石田 ディズニーでは獣医の手術の様子まで見せていますよね。
《平成 13 年度の委員会方針について》
- 石田 この委員会の来年度の方針については次のように予定を立ててみました。
- 1 新プログラムの開発
 - 2 総合的な学習に対応するプログラム
 - 3 外国のプログラムの調査
- 特に不足しているプログラムとして幼児向け・生活科・教員全般・集客効果重点・ボランティア、職員トレーニング用プログラムなどがあります。
- 鳩貝 今後のプログラム開発には学校関係者もメンバーに入れることも必要ではないでしょうか。
- 総合的な学習については、学校現場でも動きはあるが、それぞれの地域や、他の組織も入れて進めて行くべきだと考えます。
- 石田 葛西水族園では、最近学校からの視察が増え、15 件 / 年ほどあります。
- 鳩貝 各園館と学校間の歩み寄りが必要なんですね。
学校現場では、その評価が非常に難しいので混乱が見られているようです。
- 小林 最近、米国ではティーチャーズガイドが人気で、プログラム作りから過度のマニュアル化反対、応用型 How to 式に傾く傾向があるようです。
- 鳩貝 最近では、動物園に行くのに、学校との間にエージェントが介在しているんですね。
- 染川 プログラム開発に際して、動物園・水族館と博物館の違いを明確にしてから、開発していった方がより良いものができるのではないのでしょうか。
- 石田 今後の理念作りに zoo-support.net の加藤氏を加えてはどうでしょうか。
集客に結びつくようなプログラム開発、社会的効果も望めるのでは・・・。
- 高松 まず、マーケティング調査をして、ニーズを掴むことが先だと思います。
上野動物園では、52%が無料客で、各園館でのバランスシート作りや自己評価・外部評価などを進めるべきはないのでしょうか。
- 水野 理念・使命とはどういうことなのでしょう？
- 石田 難しい問題ですね。
- 山本 公立校と私立校をわけて考えることも必要だと思います。
- 石田 今日伺った内容を参考にして、来年度も活動していきたいと考えておりますが、いかがでしょうか？
- 全員 了承
- 石田 3 月 25 日上野動物園で推進委員会を開催する予定です。
- 高松 皆さん、今日はお忙しい中ありがとうございました。これにて終了いたします。